AAJPS Archives of Another Japanese Photo Stream
NEWS PAPER No.17　2022 Oct.
一般社団法人 もう一つの写真記録

AAJPS 紹介冊子完成しました

今年度は事業計画の一つに「AAJPS の最終形に向け紹介の冊子を使い全理事で引受先を探すとともに、引き受け条件の調査、準備を進めること」があります。冊子は８月に完成しその後以下の方々に郵送しました。また冊子を見て各所から感想をいただきましたのでご紹介します。

冊子の主な送付先

お知らせ便送付者（会員と全日の関係者）竹葉丈（名古屋市美術館元学芸員）木村理恵子（栃木県立美術館学芸員）大島洋（写真家）児玉房子（写真家）飯沢耕太郎（写真評論家）藤村奈保子（NHK）加納亜弥（中国新聞）赤上剛（田中正造研究家）新井勝紘（自由民権運動研究者）石田克也（ギャラリー MEM）山口響（核問題研究者）高橋章（『断層』作者）増田純（基町プロジェクト）河野美代子（医師）渡部朋子（ANT-Hiroshima）金田晋（広島大元教授）小宮山道夫（広島大公文書館）中村平（広島大教授）黒木暁登（広大 OB）坂本康（広大 OB）坪井高義（広大 OB）篠崎清次（小口一郎研究会）本橋降一（桐ヶ瀬美術館学芸員）福井崇昌（桐ヶ瀬美術館学芸員）武田温友（佐呂間町町長）福島在行（広島原爆資料館学芸員）來須真紀（基町小学校教諭）中川利國（広島大）吉村行正（テレビ新広島）樫原憲正（広島テレビ）矢部祐一（NHK）新井克英（写真家）等

紙面の都合上、一部割愛させていただきましたが、寄せられたご意見、ご感想は AAJPS の今後の活動に活かしていきます。

寄せられた感想

○ AAJPS 紹介冊子受け取りました。あまりに濃い中身に圧倒されています。今日の午後、広島へ出かけたので、基町写真展を見に行ったら、ご紹介した鹿田さんと会えました。AAJPS の紹介冊子を持って行ったので、簡単に説明して差し上げました。鹿田さん、「熱量がすごい！」と感動されています。後ろページに年時系列で整理されているのが利用しやすいです。全共闘学生運動の写真が多くありますが、その辺を全く知らない世代にも伝わる概括メモがあると･･･とも思いました。私の認識としては、1972 年２月末の浅間山荘が、最終的な大きな落下点と体感していますけど。私の姉（1948 年生れ）に見せたら、パラパラめくって、「あの頃の若者は元気だった。今の若者は金玉抜かれてると」も。（徳島大学 OB）

○やはり、このように、冊子として目で見ることができるようになると、活動の総体が見えてくると、思います。「全日を経験した人には分かるけれど、知らない人には分からない」という批判がありました。そのとうりだと思います。しかし、写真があることで、なにか語るものがあると思います。当時の、現場で撮った写真の持つ力が当時の時代の出来事の記述とリンクすると、さらに見えてきます。これから、知人に渡していきたいと思います。 以前、三里塚で、ひたすら鉄塔の下で、穴掘りをしていた人に、渋谷の喫茶店で「三里塚写真１，２」を観てもらいました。彼は、無言で観ていました。なにも、解説はいりませんでした。そして、日大闘争の奪還闘争の時、集合場所の理工学部の空き地に、全紙のパネルを掲示したことも思い出します。写真に力がありました。この冊子が、何かを伝えるでしょう。（日本大学 OB）

○このだらしない様な世界、特に日本の現状にいる時、あの地平線が再びよみがえってきた思いがします。多くの人達が自身の前のかべに立ち向かったことに言葉はありません、が胸の中に何かこみ上げるものがあります。「こんなものを……」とんでもなくそう素直に思います。こんなまとめのすばらしい一冊を本当にありがとうございます。一緒に大西さんとも手にできたらとも思います。感動々々　足ぶみ飛行機のままでいいです。（獨協大学 OB）

○素晴らしい！戦後の歴史そのものではないですか。（ANT-Hiroshima）

○膨大な量の写真群をまとめる作業は想像しただけでも気が遠くなりますが、全日本学生写真連盟が当時担っていた意義は、運動体（？）と熱量に於いて、写真界では比類のないものでした。それらを 2022 年或いはこの先どう位置付けるのか、楽しみでもあり、期待するところです。（写真家）

○「AAJPS」のお写真を一枚一枚拡大鏡で拝見しています。“自分と現実との対決”という学生時代の懐かしい言葉に接し、私も青春時代を思い出します。とりわけ、「足尾」「足尾　谷中　サロマベツ」「公害キャンペーン」の頁をめくるのは大変でした。“写真”は“論文”より説得力があります。字も言葉もいらなくて、ドーンと見る人の胸に入っていきます。全体の写真が、私が就職し、60 年安保後の激動の中で、どう生きようか模索し活動していた時代のことです。ほとんど訪問したことのある場所ですから、よけい、刃で生き方を問われる感じでした。深く考えさせられる写真集です。（田中正造研究家）

○初めて知る方がほとんどで、全日本学生写真連盟の活動について興味を持ってくださったタイミングで冊子をお渡しできるのは本当に良い機会になっています。無料配布なのでとりあえずもらっていくという方もいますが、まさに今、興味関心の波紋が広がっています。（MEM）

○こうしてまとまって俯瞰して写真作品を拝見すると、60 ～ 70 年代の日本の姿が立ち上がってくるようで見応えがありますね。じっくりと拝見させていただきます。（NHK エデュケーショナル）

○写真ってすごいですね。改めて写真の持つ力を感じました。（桐ケ瀬美術館学芸員）

AAJPS ホームページ
https://aajps.or.jp

各作業チームからの報告（'22/8/11-10/10）

広島・基町チーム

2021 年 10 月 22 日、23 日、解体されることになった小平の寮から全日、491 の資料を一旦業者の倉庫に移す作業が阿部さん、大滝さん、東さん、福崎さん、山本さん立ち合いのもとで行われました。

その作業の中で、背広を入れる平たい紙箱に整理された基町のネガ 14 箱がみつかりました。これらはレイアウトには使われなかったネガですが、内容を確認して今後どのように扱うかを検討する必要があるので、東さん宅に持ち帰ることをお願いしました。

チームではまずネガの状態をチェックしながら目録をつくる作業に着手しました。1996 年に福崎さんと村田さんが茶箱や段ボール箱に入れられたままになっていたネガを、撮影者別と撮影日に整理しておいていただいておりました。しかし、手を付けてみると番号の付け方がまちまちであるなどなかなか大変です。それにもまして苦労したのは、ネガの状態の酷さです。箱を開けると酢酸臭が広がり、ネガケースにきちんと入れられていないものがほとんどという状態です。一本分を重ねて一列に入れてあるので、その中でネガがくっついていて剥がすのにとても時間がかかります。ビネガーシンドロームが進行して濡れたような状態にあり、ベースと膜面とが剥がれてしまうようなネガもあります。予想以上にネガシンドロームが酷い状態です。

目録を完成させたあと、スキャニングに向けネガの取り扱いを検討する予定です。

尚、撮影日、撮影者、その他についての詳細は改めて報告いたします。

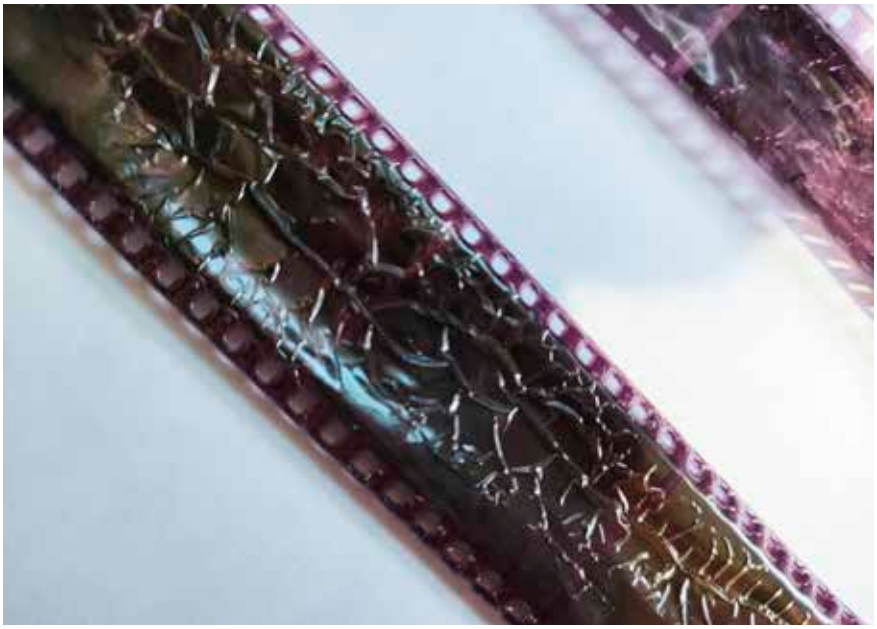

写真　上：ネガを点検しながら目録を作る。
下左：ケースに収納されたいたネガ。輪ゴムはもう用をなしていない。
下右：ビネガーシンドロームに冒されたネガ。膜面は溶け出し、赤い斑点が付き、表面にはしわがより、ベース面から剥がれようとしている。さらにベタをとった後に重ねられたネガはくっついている。

'65 ～ '79 までの全日・491 のアーカイブ作りは着々と進んでいます。お手持ちのネガや資料の情報をお知らせください。

お問い合わせ等：277-0053 柏市酒井根 2-20-11　東　閎　hig811@gmail.com